

改選数1増の4となった参院愛知選挙区。日本共産党の「すやま初美候補(37)」「新」は「憲法改悪ストップ、戦争法(安保法制)廃止のみなさんの願いを実現するために、私を国会に送り出して下さい」と、18年ぶりの党議席奪還へ気迫を込めて訴えています。愛知県・村上志郎記者

愛知選挙区は、すやま候補はじめ、自民1(現)、公明1(新)、民進2(現、新)、減税日本1(新)など9氏が立候補。すやま候補は激しく追い上げ、当



改憲と市民と共同

愛知選挙区
(改選数4)
37歳・新

すやま初美



3人の子育てをしながら、ママの会@愛知のメンバーでもあります。昨年9月に安保法

安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合@愛知呼びかけ人
新美加寿奈さん

未来に希望持ったため 立ち上がった私たち

が強行採決された時、悔しくて子どもたちの未来を考えると目の前が真っ暗で泣いていたママの会のメンバーもいました。あれから10カ月。仲間の誰もが目をそむけることもなく、真っすぐ未来を見据え、その瞳はもう涙にはぬれていません。ママだけじゃなく、学生や学者、無関心だったたくさんの市民がこの選挙に向けて、知恵を振り絞り、肉体をフル稼働して、私たちの政治を取り戻そうと立ち上がりました。

今回の選挙は「与党VS野党十市民」で、野党と市民が一緒にたたかう選挙です。立ち上がり始めた若者や私たちママにとって、特別な選挙です。私たち一人ひとりが動くか動かないかによって結果が大きく変わります。私たちの未来への希望がもてるよう、力を合わせて、すやま初美さんの勝利へがんばりましょう。

落線上の大激戦です。自民、公明候補はともに改憲問題と戦争法には沈黙し、「強い経済をつくる」と貧困と格差を拡大し、国民を苦しめている「アベノミクス」の推進を主張。減税日本は明文改憲を表明しています。すやま候補は、「国防軍」の創設や人権を制約する自民党の改憲草案を批判。「これ以上、安倍政権に私たちの命と暮らしを任せるわけにはいかない。憲法の全ての条項を守り生かす私を押し上げて下さい」と訴え、共感を広げています。野党共闘批判を強める自民、公明陣営。すやま候補は「党派を超えた幅広い市民とともに戦争法廃止・立憲主義回復、安倍政治を終わらせるために、日本共産党は市民の真ん中で野党共闘にふんばってききました」と共闘に誠実に取り組んできた姿を力説。市民からも「今度はチャンスだ。勝ってくれ」の激励が広がっています。選挙もこれまでにない、幅広い市民とともにたたかうものに。「幸せを守るために」と書いたノボリを持った子育てママや無所属議員、無党派の弁護士、学者、若者が各地で応援にかけつけています。

なくセブラック

シンガー・ソングライターの五島良子さんは「すやまさんは、一緒に安倍政権を倒すパートナー」と熱いエールを送ります。デザイナーとして長時間労働に苦しんだ体

若者が次々と駆け寄り、「国会にだってブラック企業をなくして」「ぜひ給付型奨学金をつくって」と期待を寄せます。岩中正巳県委員長は「比例も選挙区も大激戦・大接戦です。比例43万票以上の獲得をめざし、日本共産党支持の大波をつくり出し、そのうえで、すやま候補の魅力をのせる宣伝、対話・支持拡大の大攻勢で、必ず議席を勝ち取ろう」とよびかけています。